

京都地籍図

復刻版「大正元年刊」

三七五面のカラー図版と、
七万件を超える「土地台帳」のデータベースが、
明治末期の京都の景観復元を可能にし、
社会・経済構造を解析する。
地理学、経済・経営史、都市工学必携の史料！



全四巻・付録一・別冊一

本体価格 一八〇、〇〇〇円十税

全一回配本

(2008年10月、2009年4月)

不二出版



古都から近代都市へ、 京都の変遷を探る好資料

今からおよそ百年前、都市の近代化が急速にすすむ日本の古都・京都の町並み。その姿は現在と比べて大きくは変わらない。しかし当時に作成された地籍図から地割りやその所有者を一筆単位で見ると、日本最初の電車軌道、琵琶湖疏水やそれに繋がる用水路、大路・小路から入った辻子など、現在とは異なる空間が形成されていたことに気づかされる。そのことを明確に語る資料が『京都地籍図』である。

『京都地籍図』は、大正元(一九二二)年、土地の売買を念頭に置き、京都地籍図編纂所によって作成・発行された、いわゆる「土地宝典」である。「土地宝典」とは、個人または出版社が登記所や市町村役場の保管する地籍図(公図・土地台帳附属地図)と土地台帳とを合わせて、土地の現況と利用状況(地目)や面積(地積)等の情報を追加して編集したものである。

本資料は「京都地籍図 第壹編 上京之部」同 第貳編 下京之部」同 第參編 接続町村之部」の三編の地籍切図(三七五面)とそれに対応した土地台帳(以下、「土地台帳」)の計六編で構成されている。

地籍図に描かれた地理的範囲は、当時の京都市域と、将来の市域拡大の計画にあたって隣接する田中村・衣笠村・東九条村など、郡部の二カ町村をも包含した区域である。「土地台帳」は、土地台帳原簿の明治四五(一九二二)年から大正元年(一九一二年)に該当する部分を整理・編纂し活字化したものである。台帳に記載されている内容は、元組・住所・字・地番・等級・地目・反別・地価(地主(所有者)の住所と姓名である)。

小社では復刻版作成にあたり、上京・下京・接続部のカラー地図図版(三編分)を二巻に合本し、三冊の「土地台帳」は原本通りとした。また、検索の便を図るために、「土地台帳」記載の七一、〇四七件のすべての記録を電子データ化し、CDに収録して付録とした。これは、地名の検索はもちろん、地目・地主などの集計に活用できる。つまり、地主などの地籍を集計することによって、いわゆる「名寄帳」が作成でき、所有面積・地代などを指標とした社会・経済構造を読み取ることが可能になる。

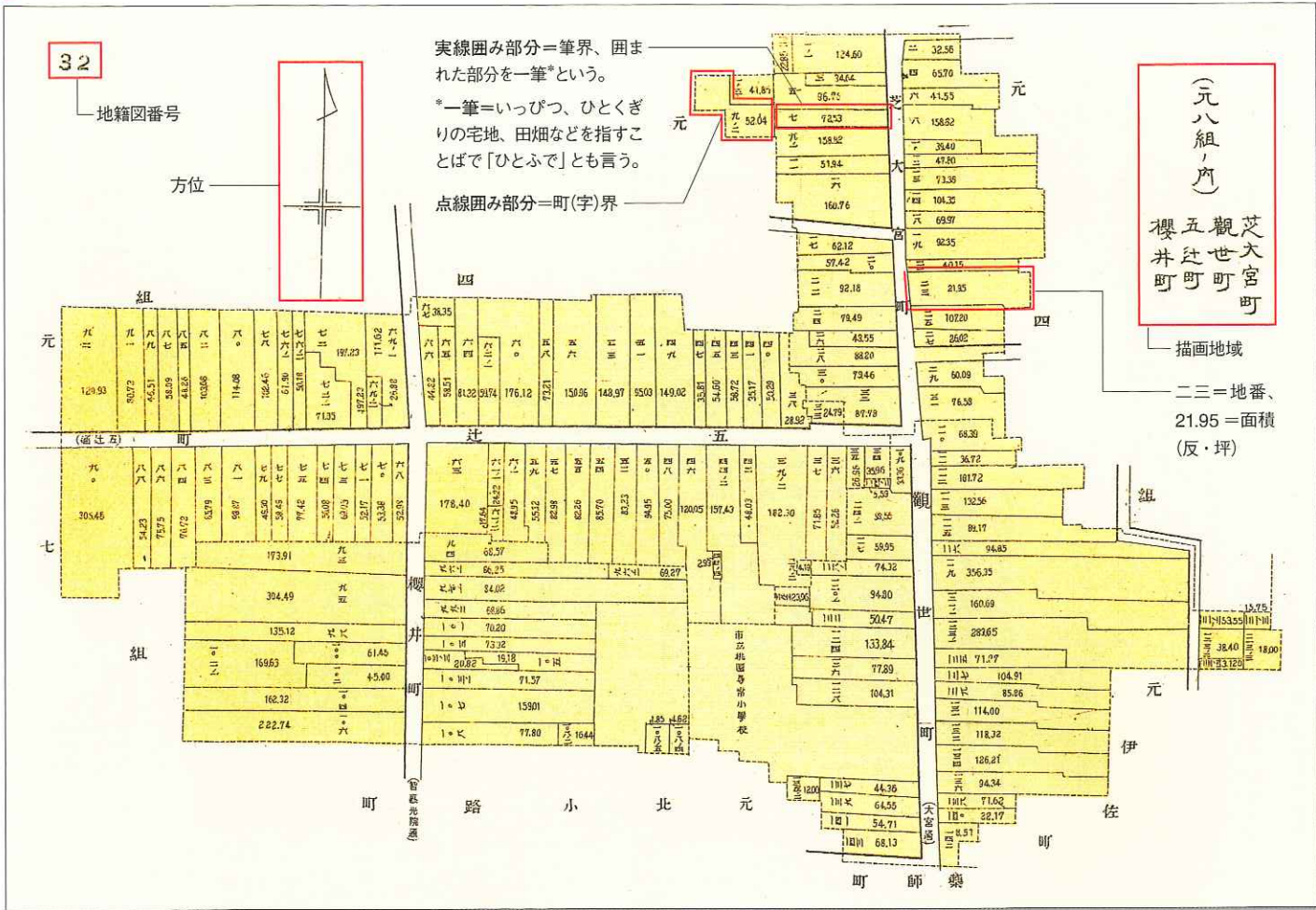
本付録は近代都市・京都を解析するうえでの膨大なデータベースと言っても過言ではない。

地理学、都市史、経済・経営史、社会学、文学等の研究者に広く提供する次第である。

不二出版

復刻にあたって

「地籍図」内容見本



「土地台帳」の内容見本

区	所在(通り名)	元組	字	地番	枝番	等級	上中下	地目	坪別	反別	地価	所有者住所	地主姓名
上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	1	1	71		宅地	124.60		65.340		大橋フサ
上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	1	2	85		宅地	22.85		119.330		大橋フサ
上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	1	3	85		宅地	41.85		218.530		河合勝三郎
上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	2	0	71		宅地	32.56		169.200	樋ノ口町	山崎サク
上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	3	0	71		宅地	24.64		180.900	西大路町	中島喜太郎
上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	4	0	71		宅地	65.70		342.900	大宮町	岸田治三郎
上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	5	0	71		宅地	96.76		505.080		河合勝三郎
上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	6	0	71		宅地	41.55		216.720		大橋理一郎
上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	7	0	71		宅地	72.53		378.540		大橋理一郎
上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	8	0	71		宅地	120.49		628.920		大橋理一郎
上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	9	1	71		宅地	158.82		829.080	葛野郡衣笠村	西村伊平次
上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	9	2	60		宅地	52.04		271.620		三上正之助
上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	10	0	71		宅地	39.40		205.740	大宮町	岸田治三郎
上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	11	0	71		宅地	51.94		271.080	葛野郡宇平野	西村伊平次
上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	12	0	71		宅地	47.08		245.700	麓屋町	中川新太郎
上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	13	0	71		宅地	73.36		382.860	杉本町	櫻井フサ
上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	14	0	71		宅地	104.35		544.680	室町頭町	松尾伊助
上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	16	0	71		宅地	160.76		839.160		吉田敬吉
上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	17	0	71		宅地	62.12		324.360	大宮町	岸田治三郎
上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	18	0	71		宅地	69.97		365.220		大橋理一郎
上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	19	0	71		宅地	92.35		482.040	骨屋町	金正善吉
上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	20	0	71		宅地	57.42		299.700	五辻町	小林トモ
上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	21	0	71		宅地	40.15		209.520	骨屋町	金正善吉
上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	22	0	71		宅地	92.18		481.140	五辻町	小林トモ
上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	23	0	71		宅地	21.95		584.460		澤野平三郎
上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	24	0	71		宅地	76.40		399.240	大宮町	岸田治三郎
上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	25	0	71		宅地	107.20		559.620		本庄武助

- 上京区元八組=元組とは、明治時代の番組制度から派生した京都の住民自治組織を指す。
- 大宮通り五辻上ル=所在(通り名)の例。
- 字=最小単位の地名を指す。
- 地番=土地登記簿に登録するために土地の一筆ごとに付けた番号(番地ではない)。
- 等級=1等級から124等級に分類されている。当時の土地価格がわかる。
- 地目=土地の用途を表すために付けられた名称。宅地の他に道路、水路、田、畑、学校、鉄道、公園などがある。
- 反別=土地の面積、地目により坪と反にわけて表記されている。
- 地価=当時の土地の価格。
- 住所=下欄の地主の住所を表す欄。ここが空欄の場合、地主の住所は文頭の字と同じであり、住所が記されている場合はその箇所が地主の住所を示している。

「土地台帳」データCDの内容見本 ●収録サンプルデータ(CSVテキスト形式)を表計算ソフトで開いたイメージ

地籍図番号	区	所在(通り名)	元組	字	地番	枝番	等級	上中下	地目	坪別	反別	地価	所有者住所	地主姓名
32	上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	1	1	71		宅地	124.60		65.340		大橋フサ
32	上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	1	2	85		宅地	22.85		119.330		大橋フサ
32	上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	1	3	85		宅地	41.85		218.530		河合勝三郎
32	上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	2	0	71		宅地	32.56		169.200	樋ノ口町	山崎サク
32	上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	3	0	71		宅地	24.64		180.900	西大路町	中島喜太郎
32	上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	4	0	71		宅地	65.70		342.900	大宮町	岸田治三郎
32	上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	5	0	71		宅地	96.76		505.080		河合勝三郎
32	上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	6	0	71		宅地	41.55		216.720		大橋理一郎
32	上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	7	0	71		宅地	72.53		378.540		大橋理一郎
32	上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	8	0	71		宅地	120.49		628.920		大橋理一郎
32	上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	9	1	71		宅地	158.82		829.080	葛野郡衣笠村	西村伊平次
32	上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	9	2	60		宅地	52.04		271.620		三上正之助
32	上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	10	0	71		宅地	39.40		205.740	大宮町	岸田治三郎
32	上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	11	0	71		宅地	51.94		271.080	葛野郡宇平野	西村伊平次
32	上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	12	0	71		宅地	47.08		245.700	麓屋町	中川新太郎
32	上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	13	0	71		宅地	73.36		382.860	杉本町	櫻井フサ
32	上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	14	0	71		宅地	104.35		544.680	室町頭町	松尾伊助
32	上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	16	0	71		宅地	160.76		839.160		吉田敬吉
32	上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	17	0	71		宅地	62.12		324.360	大宮町	岸田治三郎
32	上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	18	0	71		宅地	69.97		365.220		大橋理一郎
32	上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	19	0	71		宅地	92.35		482.040	骨屋町	金正善吉
32	上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	20	0	71		宅地	57.42		299.700	五辻町	小林トモ
32	上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	21	0	71		宅地	40.15		209.520	骨屋町	金正善吉
32	上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	22	0	71		宅地	92.18		481.140	五辻町	小林トモ
32	上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	23	0	71		宅地	21.95		584.460		澤野平三郎
32	上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	24	0	71		宅地	76.40		399.240	大宮町	岸田治三郎
32	上京	大宮通り五辻上ル	元八組	芝大宮町	25	0	71		宅地	107.20		559.620		本庄武助

左の「土地台帳」の全情報を電子化。各種の調査、目的に応じた集計や並び替えが可能!

利用者の立場に立った 誠実な復刻

末永國紀 ● 同志社大学経済学部教授

本書の原本の刊行は、大正元（一九二二）年である。まさに大正三年に始まる第一次大戦の直前である。第一次大戦を経済史や経営史の分野からみると、都市化の進展と大衆消費社会の到来という現代日本社会の原型が造られた歴史の転換期である。

本書は、現代に向かって躍動を開始する直近の京都の都市としてのたゞずまいを、浮かび上がらせ、見てとることのできる豊かな脈であり、情報の宝庫である。土地台帳を原資料としているので、一筆毎の町名や地目、坪数、等級、地価、所有者住所姓名等を知ることができる。たとえば、京都経済を特徴づける高級工芸品を扱う業者町はこの町を中心に展開していたのか、京都の自治を支える町自治を担っていたのはどんな人々であったのか、というようなことについても事実にもとづいて具体的に接近することができる。

私の専門である近江商人についても、西陣織をはじめ呉服太物を扱う町界隈には多くの出店があったということは個々によく見聞してきた。旧刊の『京都地籍図』によっても、全体としてどのような商人がどこに出店を開いていたのかということもさしと押さえることは、煩雑で間違いのおきやすい名寄せ作業が必要であった。

今回の復刻の特徴は、単に旧刊をそのまま復刻するのではなく、膨大な台帳記載のデータをCD化して、利用の便を図っていることである。これによって、どの研究分野からの検索でも素早く確実になった。IT時代にふさわしい、利用者の立場に立った誠実な復刻といえるであろう。研究者や研究機関に本書を広く推薦する所以である。

鬼に金棒

杉本秀太郎 ● 国際日本文化研究センター名誉教授

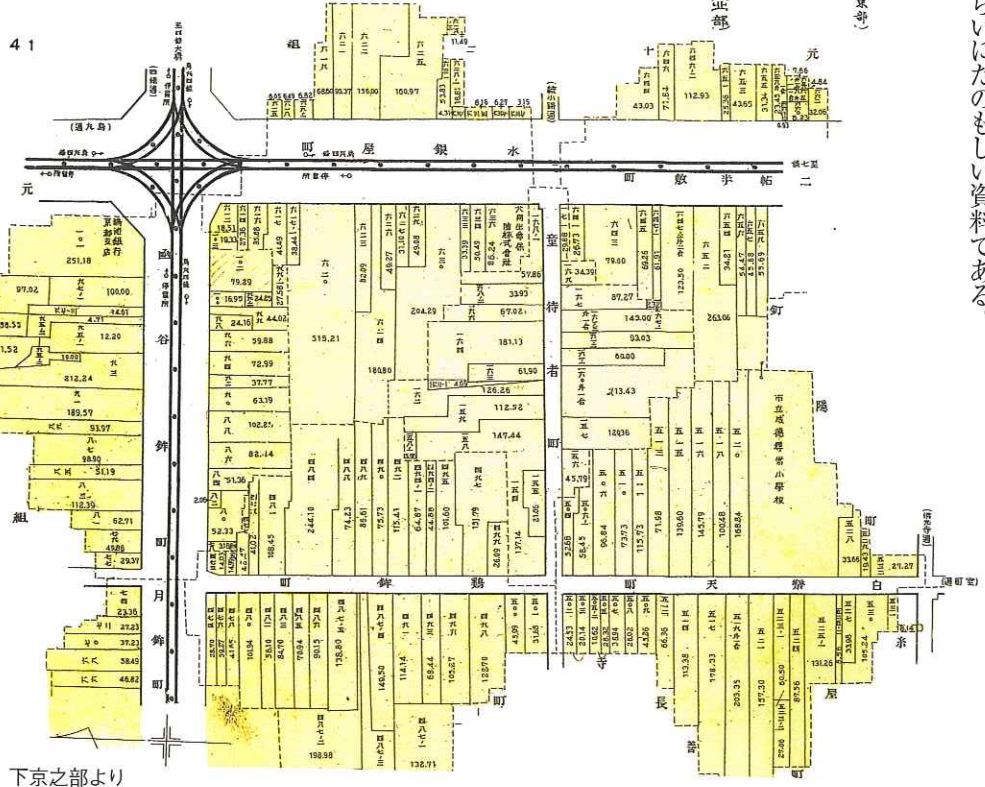
二〇〇七年三月のこと、旧知の室方治さんから思いがけない届け物に浴した。室さんは京都の中京区で道具商を営む人だが、届け物がまさにこのたび復刻される『京都地籍図』全六巻の揃いだっただけで、偶然というには少し不思議すぎる。私の手許にこの貴重な資料の備えがすでにあるのを不二出版の編集者が承知して推薦文の依頼ということになったとは思えないからである。もしもこの資料を使ってみたいこともなくて依頼に応じていたとすれば、私はさぞ軽々しいことを書いただろう。

そのとき室さんは京ことばでこう言われた、「明治から大正、昭和も戦前の市の様子は、よっぽど調べやすうなりませ。永久貸与ということにしますさかい、どうぞお使いやす。」

かねて気がかりだったことの幾つかを早速たしかめた。例えば、本居宣長の下宿していた堀景山宅の旧地の明治末の所有者、画家安井曾太郎の生家の正確な位置、番地画家須田国太郎の生家のある町内の正確な戸数。そして、ついこのうも、桑原武夫「思い出すこと忘れぬ人」を講談社文芸文庫で再読して、先生の錦林小学校時代の住所二個所の位置を、これでたしかめた。

私の手許には、室さんが苦心して作製された「京都番組区画図」もある。それを頼りに『京都坊日誌』と引き合わせるとき、『京都地籍図』は「鬼に金棒」のたとえを使いたいくらいにたのしい資料である。

(元十一組内)
月筆町(東寺)
西谷餅町
鷺餅町
水鏡屋町
童河者町
二所半町(西)
白樂天町



下京之部より

京都の歴史を語る 『京都地籍図』

高橋康夫 ● 京都大学大学院工学研究科教授

地籍図が都市史・建築史、地理学など多くの分野の有益な史料であることはよく知られている。京都のように都市空間のなかに二〇〇年の歴史が累積しているところでは、近代の宅地割、都市空間のみならず、近世、さらには中世以前の宅地割、都市空間の様相をうかがうことができることもある。地籍図は、都市研究を始めるにあたって最初に参照すべき史料であるとともに、都市空間を深く知るために不可欠な史料といつてよい。

私自身も、京都の町と町家の研究を始めたころ、そして中世・四条室町の町並み模型（国立歴史民俗博物館）や、中世京都の町並み模型（京都市景観・まちづくりセンター）「京のまちかど」展示コーナーの制作にかかわったとき、当然のことながら対象地域の骨格を想定する基礎作業として『京都地籍図』を参照、検討した。

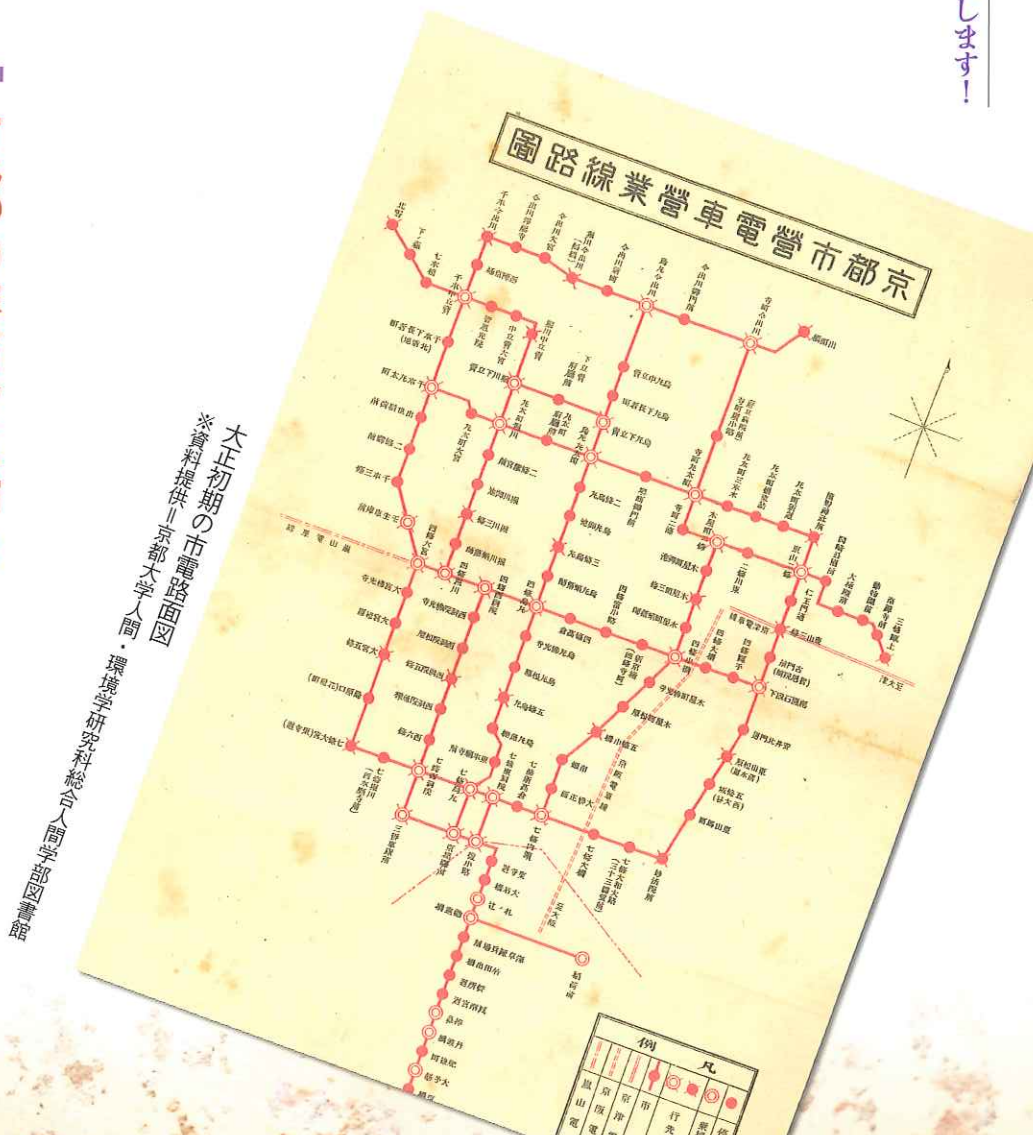
このたび、復刻版『京都地籍図』が出版されるといふ。利用が容易になることによって、よりいっそう地籍図の活用が進むことになろう。しかし、地籍図の史料としての有用性は承知していても、その単純なデータ、量の多さ、うまく現在の地図にのらないことなどに辟易することもある。そうした場合のために付録のCDデータが大きな助けになることであろう。また聞くところによると、『京都地籍図』のGIS化の作業も行われているそうである。若い研究者たちによる、こうした一連の地道な史料研究から、京都・都市史研究がおおいに発展すること、また新たな京都・都市史が創出されることを期待してやまない。

『京都地籍図』の 復刻を慶ぶ

山田 誠 ● 京都大学大学院人間・環境学研究科教授

ある地域の過去の景観や構造を复原することは、歴史地理学の目的の、少なくとも一つである。その際、過去に作成された大縮尺の地図は貴重な資料となるが、近代の日本に関しては、地籍図（土地台帳付図。しばしば公図ともよばれる）がその代表的なものである。これは明治初期から中期にかけて、地租徴収のために全国で作成された（縮尺は基本的に六〇〇分の二）もので、歴史地理学の研究にしばしば利用されてきた。しかし、この資料は法務局出張所や市町村役場に分散して保存されているケースが多く、複数の地域の資料を一カ所で閲覧できることが少ないといった、資料としての使いにくさがあることも事実である。

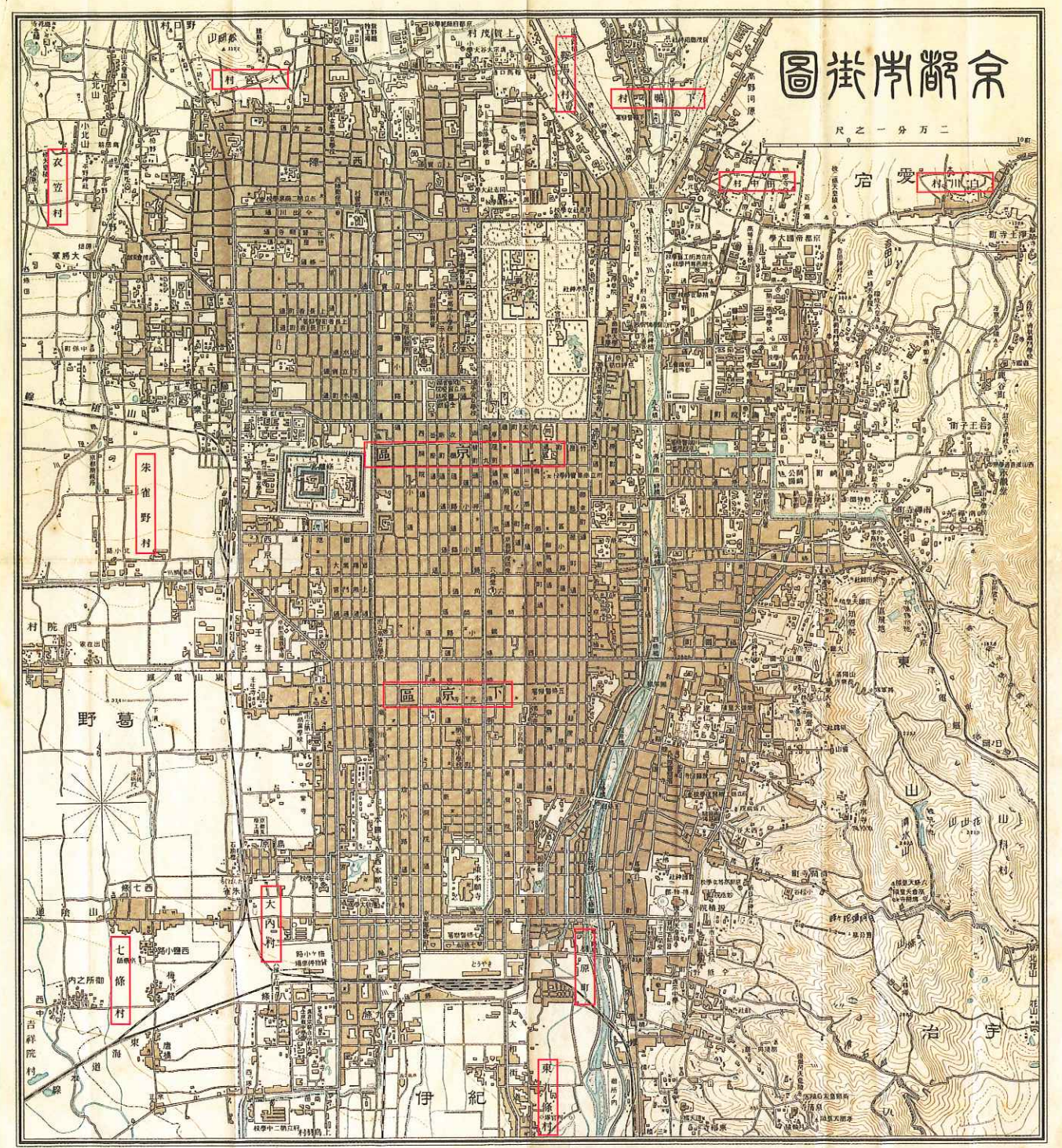
その点、今回復刻される『京都地籍図』は、一九二二年の京都市および周辺町村（接続町村という用語が用いられている）を、土地一筆まで表示した約四〇〇枚の図のセットであり、同時に復刻される『京都地籍図附録』(土地台帳)のもつ豊かな情報（筆ごとの地目・面積・地価に加えて、土地所有者の住所・氏名も表示されている）を併用すれば、一九一―二二年当時の京都の景観ないしは地域構造を复原するのに、まさに好適な資料といえる。さらに付言するならば、今回の復刻版には、『京都地籍図附録』の膨大な情報が電子データとして入力されたCDが同封されているという。近代の京都に関する貴重な空間データが身近なものとなったことを慶びたい。



「並べ替え」と「絞り込み」によるデータベースの威力

- ①「等級」から地価分布が一瞬にして判明する。
- ②「地主姓名」から大地主、資産家の氏名や企業名が確定できる。
- ③「地主住所」から他府県からの企業の進出状況が把握される。

『京都地籍図』に収録された市・郡域一覧(赤囲みの市・町・村が対象範囲)

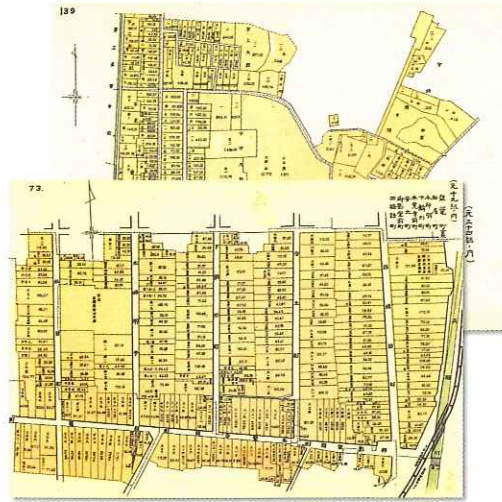


大正初期の京都市街図

※資料提供=京都大学人間・環境学研究科総合人間学部図書館

景観の復元

カラー地籍図の縮尺を合わせて方向に注意して繋いでいくと、現在では使われていない町名も付された、「元組」の様相を詳細に示す地図が浮かび上がり、当時の上京区、下京区の姿、さらに京都市とその周辺地域の様子が超大型地図として具体的に表現される。いわゆる景観復元が可能になる。



土地利用実態の判明

「土地台帳」に列挙された一筆単位の地目から、当時の土地利用状況を判明する。

これらには「宅地」ならびに「田」「畑」などの農業的土地利用だけでなく「疎水用地」「市電」「陶磁器試験場敷地」など、京都独特の地目も設定されている。同様に、一筆単位の地価も明記されているので、地目や地域による地価の差異も明らかになる。

地主、資産家名の確認と社会・経済構造の理解

一筆単位で地主を知ることが可能である。彼らがいかなる地目を、どれだけ所有していたのかという視点から、当時の社会・経済構造も理解できよう。とりわけ、地域外の居住者が地主の場合には、その住所も併記しているため、大阪や東京などの資本家の参入も看取できる。

地籍図番号	区	所在(通り名)	元組	字	地番	枝番	等級	上中下	地目	坪別	反別	地価	所有者住所	地主姓名
22	下京	新京極四條上ル	元六組	中之町	537	1	124		宅地	40.10		3368.400	中之町	秋田伊三郎
22	下京	新京極四條上ル	元六組	中之町	537	2	124		宅地	35.69		2997.960	中之町	秋田伊三郎
22	下京	新京極四條上ル	元六組	中之町	537	3	124		宅地	10.60		980.400	南桑田郡亀岡北町	田中源太郎
22	下京	新京極四條上ル	元六組	中之町	537	4	124		宅地	10.73		901.320	東側町	河口庄太郎
22	下京	新京極四條上ル	元六組	中之町	539	1	124		宅地	45.49		3821.160		奥井トミ
22	下京	新京極四條上ル	元六組	中之町	540	0	124		宅地	22.54		1893.360	弁財天町	熊谷徳兵衛外一名
22	下京	新京極蛸薬師下ル	元六組	東側町	530	2	123		宅地	1.38		111.780	中之町	小林寅吉
22	下京	新京極蛸薬師下ル	元六組	東側町	531	2	123		宅地	148.07		6263.280	中之町	小林寅吉
22	下京	新京極蛸薬師下ル	元六組	東側町	532	0	123		宅地	8.18		662.580	中之町	小林寅吉
22	下京	新京極蛸薬師下ル	元六組	東側町	533	2	123		宅地	38.28		3100.680		小川いお
22	下京	新京極蛸薬師下ル	元六組	東側町	534	0	123		宅地	31.61		2560.410	西橋詰町	宮澤治助
22	下京	新京極蛸薬師下ル	元六組	東側町	535	0	123		宅地	30.01		2430.810	裏寺町	高橋為治郎
22	下京	新京極蛸薬師下ル	元六組	東側町	536	0	123		宅地	33.34		2700.540	裏寺町	高橋為治郎

▲上記のデータは並べ替えによって「等級」の最も高いところを示したものである。町名、地価、所有者などが一瞬にして判明する。

地番	枝番	等級	地目	坪別	反別	地価	所有者住所	地主姓名
652	0	79	宅地	34.28		462.76	大阪備後町三丁目	株式会社近江銀行
654	0	79	宅地	158.43		427.81	大阪備後町三丁目	株式会社近江銀行
456	0	50	宅地	417.12		1126.08	東京日本橋区駿河町	株式会社三井銀行
753	0	55	宅地	339.07		1356.28	東京日本橋区駿河町	株式会社三井銀行
59	0	64	宅地	242.75		1092.42	東京日本橋区駿河町	株式会社三井銀行
60	0	64	宅地	130.43		286.8	東京日本橋区駿河町	株式会社三井銀行
61	0	63	宅地	39.71		297.82	東京日本橋区駿河町	株式会社三井銀行
701	0	77	宅地	27.06		392.36	東京日本橋区駿河町	株式会社三井銀行
8	0	91	宅地	728.68		12640.55	東京日本橋区駿河町	株式会社三井銀行
617	0	78	宅地	74.34		963.36	大阪東区高麗橋三丁目	株式会社三十四銀行
193	0	73	宅地	71.79		897.37	大阪市東区北浜五丁目	株式会社住友銀行
562	0	85	宅地	59.84		1055.52	御射山町	株式会社商工銀行
654	0	85	宅地	46.45		861.12	御射山町	株式会社商工銀行

◀左記のデータは地主が「銀行」であるという点に着目して並べ替えたものである。本データベースによって様々な「並べ替え」やフィルター機能による「絞り込み」が可能となる。

復刻版

京都地籍図

全四巻＋
付録1＋
別冊1

復刻版概要

●復刻版全巻構成

- 第1巻 京都地籍図 全図版(4色カラー) 382頁
- 第2巻 第壹編 上京区之部「土地台帳」 546頁
- 第3巻 第貳編 下京区之部「土地台帳」 502頁
- 第4巻 第參編 接続部之部「土地台帳」 184頁
- 付録「土地台帳」データ(CD) 1枚
- 別冊 解説・CDデータ使用説明書

第1回配本
(二〇〇八年一月刊行)
九〇,〇〇〇円＋税
ISBN978-4-8350-6273-0

第2回配本
(二〇〇九年四月刊行)
九〇,〇〇〇円＋税
ISBN978-4-8350-6277-8

関連図書(復刻版)のご案内

史蹟名勝天然紀念物

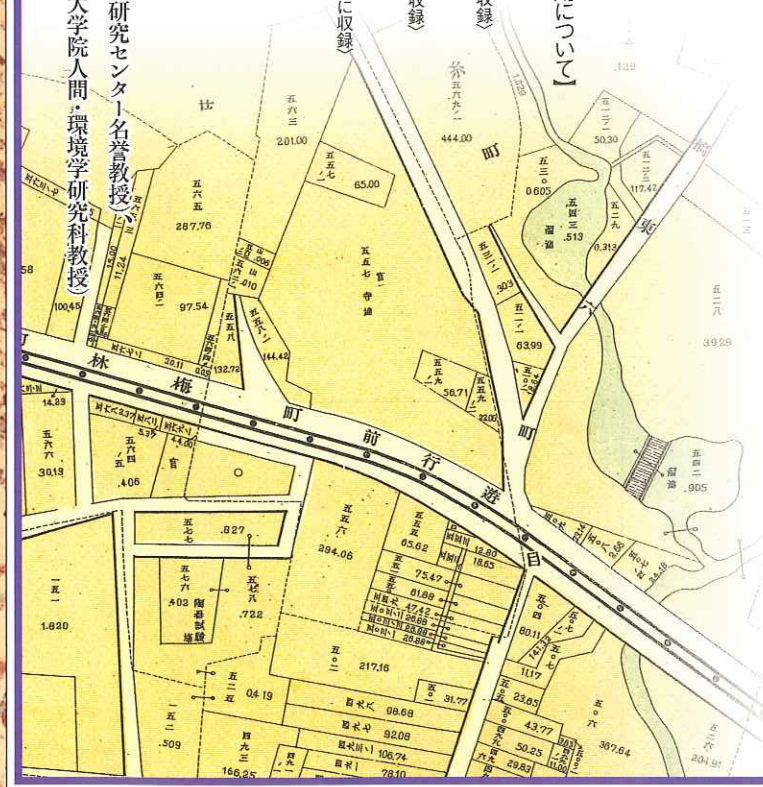
〔大正編・昭和篇〕全巻完結！

《全55巻・附録1・別冊2》

- 体裁——A4判・A5判・上製
- 別冊——解説・総目次・索引
- 解説——丸山宏・高木博志
- 定価——本体揃価格〃九四八,〇〇〇円＋税

●表示価格はすべて税別。

- 本体体裁——A4判・上製・総約1,614頁
- 解説——河原典史(立命館大学文学部准教授)
- 付録解説——井上 学(平安女学院大学国際観光学部講師)〔CDデータの有効利用について〕
- 原本——
 - 『京都地籍図 第壹編 上京区之部』(第1巻に収録)
 - 『京都市及接続町村 地籍図附録 第壹編 上京区之部』(第2巻に収録)
 - 『京都地籍図 第貳編 下京区之部』(第1巻に収録)
 - 『京都市及接続町村 地籍図附録 第貳編 下京区之部』(第3巻に収録)
 - 『京都地籍図 第參編 接続町村之部』(第1巻に収録)
 - 『京都市及接続町村 地籍図附録 第參編 接続町村之部』(第4巻に収録)
- 原本提供——立命館大学図書館
- 編集協力——立命館大学文学部地理学教室
- 揃定価——本体一八〇,〇〇〇円＋税(分売不可)
- 推薦——末永國紀(同志社大学経済学部教授)、杉本秀太郎(国際日本文化研究センター名誉教授)、高橋康夫(京都大学大学院工学研究科教授)、山田 誠(京都大学大学院人間・環境学研究科教授)



不二出版

〒113-0023
東京都文京区向丘1-2-12
電話03-3812-4433
ファクシムル03-3812-4464
振替001600294084